

16歳以下 テニス国別対抗戦へ

世界の頂点

相生学院高加古川・河内君

目指し気合



16歳以下のテニス国別対抗戦に日本代表として出場する河内一真君＝加古川市加古川町北在家

28日にメキシコで開幕する16歳以下のテニス国別対抗戦「ジュニアデビスカップ決勝大会」に、通信・単位制の相生学院高校加古川校(加古川市加古川町) テニス部の1年河内一真君(15)が出場する。昨夏から国内の大会で好成績を残し、日本代表入りを果たした。「優勝して帰国する」と、世界での活躍を誓っている。(田中宏樹)

メキシコで開幕 「優勝し帰国を」

大阪府高槻市出身。小倉でパワー不足を実感する1年で、地元の硬式テニススクール「テニスガールデン高槻」に入り、本格的に競技を始めた。河内君は中学入学時、身長が約145センチと平均より約7センチ低かった。試合で準備勝。11月には15

歳以下の全国大会で優勝し、今年1月に16歳以下の日本代表に選ばれた。「強い大学との練習や試合が多く、世界で戦うために必要な英語の教育が充実している」と、4月に相生学院高加古川校へ入学。授業終了後、自転車で約20分かけて練習場所へ移動し、約6時間テニスに打ち込む。

学校近くのアパートでの一人暮らしにも「練習時間が多く、専用のコートもあって環境に恵まれている」と、充実感をにじませる。

世界16カ国が出場する9月の大会には、大阪府の内田海智君(16)、東京都の守谷総一郎君(16)と挑む。同学年の2人とは全国大会の個人戦で何度

も顔を合わせ、「最大のライバルで、最大の仲間」と言い切る。同じメンバーで戦った4月のアジア・オセアニア予選では、参加16カ国の頂点に立ち、結果は固い。「各国のトップクラスと戦うことで、世界にどれほど通用するか分かるので楽しみ」と河内君。「自分に足りないものを多く吸収して帰ってくる」と力強く話した。